



## 大連日本人学校の教育活動

平成19年度派遣  
桶川市立桶川小学校  
教諭 岩下 則子

### 1 はじめに

平成19年4月に大連日本人学校に赴任し3年間。日本全国さまざまな都道府県から集まった教職員と現地スタッフ一丸となって「すべては子どもたちのために」を合い言葉に全力で教育活動に取り組んできました。その大連日本人学校での教育活動の様子を紹介します。

### 2 中国・大連の概要

#### 【地理】

大連市は、中華人民共和国の東北部、遼東半島の南端、北緯38度43分～40度10分、東経120度58分～123度31分の間に位置している。緯度的には、日本海側では山形県、太平洋側では宮城県の辺りと同じである。渤海と黄海によって三方を海に囲まれており、海岸線の総延長距離は1906km。日本をはじめとする多くの外国企業が進出する経済先進地域であり、その繁栄ぶりから「北方の香港」と呼ばれる港湾都市である。



#### 【気候】

大連の気候は、海洋性の特徴を持った大陸性モンスーン気候で四季がはっきりしている。春の平均気温が9.3℃、最も暑い8月の平均気温が24.2℃、秋の平均気温が13.2℃、最も寒い1月の平均気温が-4.9℃と、ほかの東北の都市に比べると温暖で過ごしやすいといわれている。年間降水量は550～950mm、日照時間は2500～2800時間。

#### 【人口・民族】

2008年現在、総人口は約583.3万人で、そのうち235.5万人(40.4%)が農業人口を占めている。民族は漢民族が全体の94.6%で、他に朝鮮族、満州族、回族、モンゴル族、シボ族など45の少数民族が住んでいる。大連の言葉は標準語だが、人によって大連訛りもある。南方と比較して北方の人の性格は「素朴・誠実・忍耐強い」と言われている。

#### 【経済】

大連はもともとは農業・漁業が主体の土地であって、いまま農業ではトウモロコシ、野菜、リンゴ・サクランボ・モモなどの果物の栽培が盛んである。漁業は特に盛んで、現在は各種の海水魚の捕獲、コンブ・ワカメ・帆立貝・ウニなどの養殖が行われ、日本・韓国への輸出も多い。

また、日本統治時代から造船(大連汽船)、鉄道車両の製造(南満州鉄道の沙河口工場)などが行われていたが、戦後、重・軽工業、化学工業も盛んになった。

1978年に始まった改革開放政策の一環として、1984年に北郊外の金州区の東半分が「大連経済技術開発区」に指定されて、外国企業、特に日本企業(東芝、三菱電機、三洋電機、日本電産、キヤノン、マブチモーター、三島食品、ロームなど)、次いで韓国企業、欧米企業(ファイザーなど)の進出が著しい。また、2006年には、インテルが2010年上半期を完成目標に、中国で初めての大規模半導体工場を開発区に建設することが、発表されている。

日本からの進出企業は3882社、外国企業は13,168社となっている(大連市ホームページより)。駐

